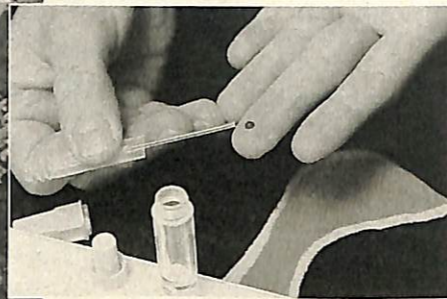
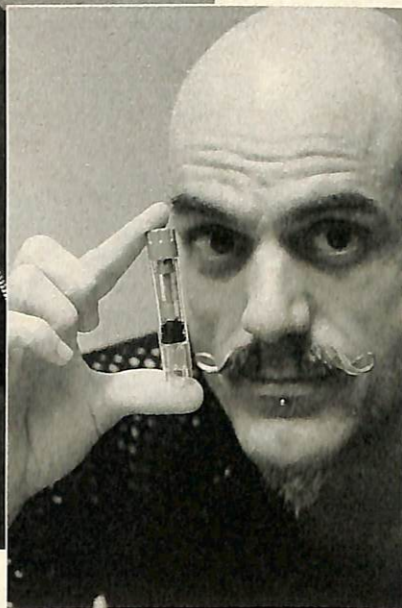


ランセットを手にしてもなお、採血を躊躇。指先は敏感な所だから気持ち悪く感じるが「痛かったら担当者を殴る」宣言をするとは……



指先に出た血をキャピラリーで採血。量が足りないとし直し結果が得られないので、血を絞り出すように手をもんだ。

ボトルの中は、血液と検査溶液が混ざっている状態。「この方法は病院とかでやっってる15分で結果がわかる検査と似てる」とパト



防・教育費はおろか、感染者に対する医療費面のサポートも削っちゃうかもしれない！  
さて、気になる検査結果。気にしたところで、パトの場合、陽性以外に考えられず、中一日で届いた検査結果のメールも「陽性(+)」。

パト その昔、6〜7年前だったかな、ツパで検査するキットがアメリカから輸入されて、試しにやってみたら、5回中3回は陰性だった。そんなダメなキットと違って、今回は一発で陽性、別に嬉しい結果じゃないけど、正確性はボクが保証する！

### 結果は陽性(+)。別に嬉しくはないけど検査精度は高いね

#### Pat's日記

この前、アラン・ミクリの25周年パーティがあって、そこでDJしました。品川プリンスホテルの「Club eX」でやったんだけど、も〜最高っ！円型ホールでDJブースが真ん中にあるの。まさに、ボクが長年、心に描いていた理想のクラブ。それがまさか日本にあるとは！大勢の人の前でDJするのも久しぶりで、超興奮！

#### Pat'sニュース

アメリカは来年の大統領選に向かって動きだしているよ。先日、民主党派のゲイの団体が出馬予定の政治家に文書を提出したんだ。内容は「ゲイの結婚を認めない人はサポートしません」と。そして「反対の人は潰します」と。ゲイの団体は、力も強いしお金もある。アメリカの政治、おもしろくなるよ〜

# GO! GO! PATRICK

パワフルHIVポジティブ



今週の目的地

### HIV在宅検査キット

昨年末、「リビングプロシード/デメカル・ヘルスサポート事務局」が会員向けに販売を開始した、自己採血方式によるHIV抗体のスクリーニング(ふるい分け)検査キット。商品名は「STD-II 感染症HIVセルフチェック」。今年5月からは、大手薬局チェーンで店頭販売された。商品購入時にレジで検査の手順などの説明ビデオをもらえ、値段は4600円(税別)。特許取得の精度の高い検査方法で、デメカル・ヘルスサポートによれば、利用者は20代が多く、男女比は概算で男4:女6という。(http://www.demecal-hs.com/)

vol. 441



検査キットを開封し、内容物に漏れがないことを確認しながらも「痛いのはイヤ〜」と連発するパト。検査拒否?とも思える、浮かない顔

パト えーっと、初めに出た血は綿棒で拭き取って、と。

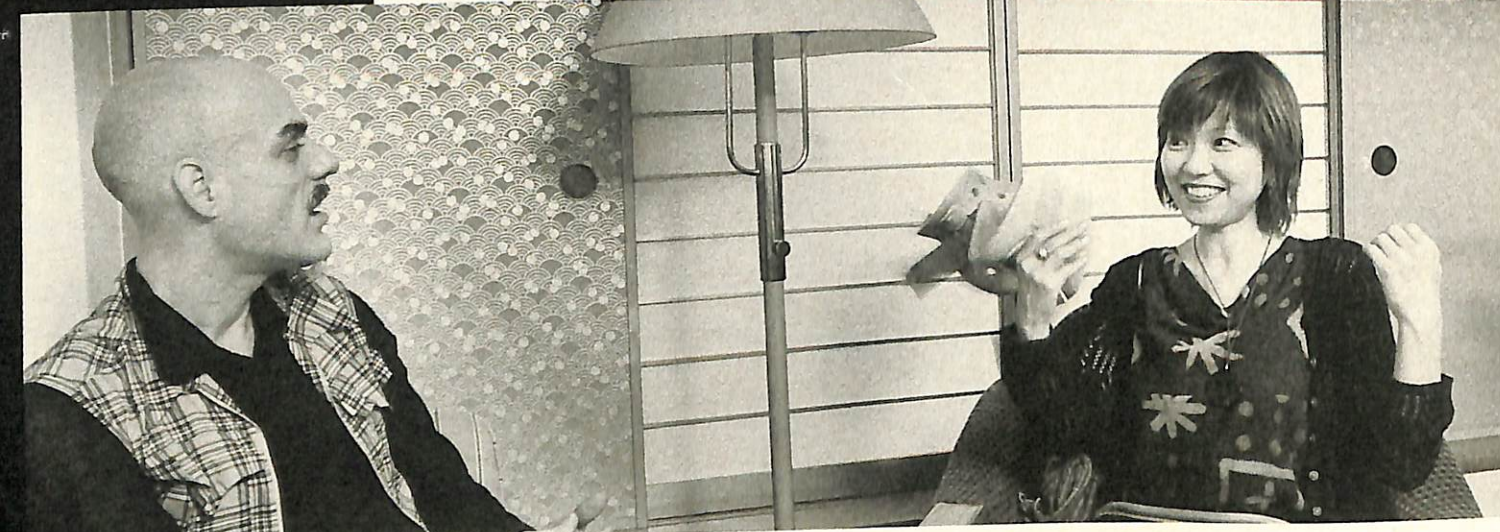
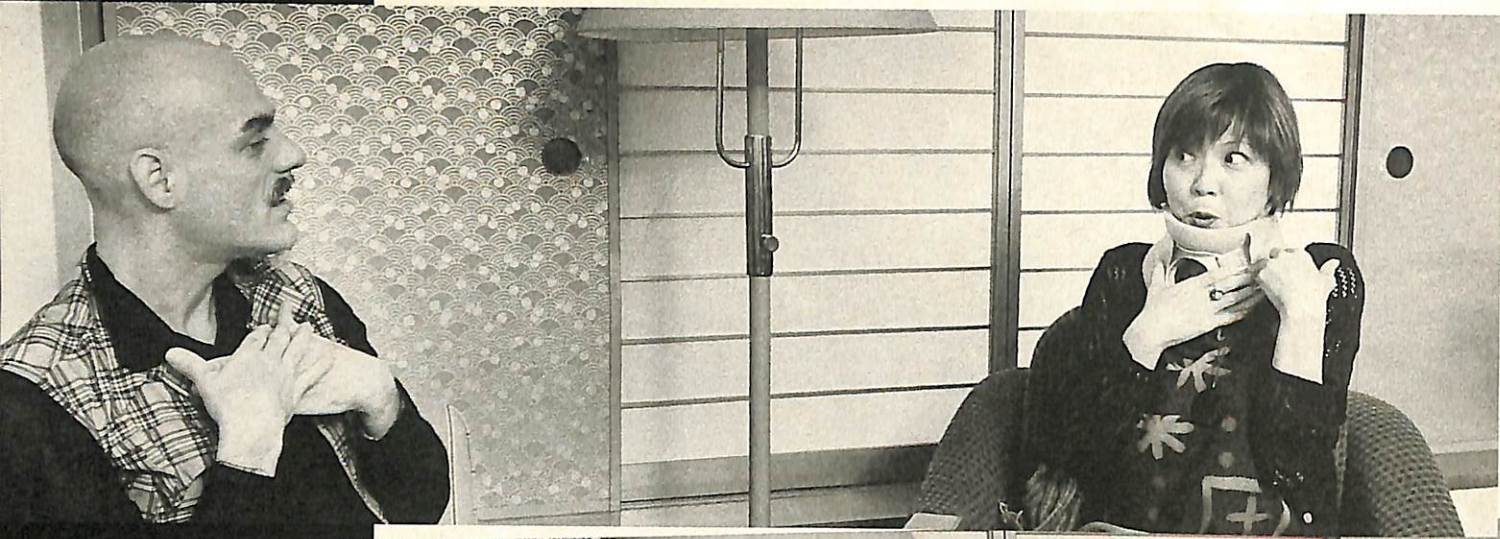
「初めに出た血液には、組織液などが含まれているため、検査には使えません」との注意を守り、拭き取った後に再び出てきた血液を、採血管に入れる。必要採血量に達したら、特殊な溶液の入ったボトルに血液をすべて垂らす。溶液と血液がよく混ざったところで、今度は血液を血球と血漿に分離させるシリンドラーをボトルに押し込む。

パト わっ、透明な液体が上がってきた！  
透明な液体とは、血漿のこと。従来、自己採血による検査キットでは、分離させる前の血液を使っていたが、それだと血液が劣化するため、精度は決して高いとは言えなかった。しかし、このキットは採血後すぐに血球と血漿を分離させるので、精度はかなり高いという。

パト ボトルを密閉キャップでしっかりと閉めて、と。後はパッキングして、発送すればいいだけ? もっと面倒くさいかと思っていたけど、10分もかからなかったんじゃない?

発送する先は、発売元が提携する医療機関。そこできちんとした検査がなされ、その結果は数日後、郵送とメールで送られてくるシステム。メールのみの返信も選択できる。個人データは、発売元から委託されたNTTデータが管理し、検査をした人は検査後にもらえるIDパスワードによって、パソコンから情報を見ることが出来る。が、それ以外はデータ管理者でさえ、サーバーにアクセスするのに指紋認証が必要というほど、万全のセキュリティ。

パト 全国にある大きな薬局で買えて、検査の正確性が高いうえ、データ管理も万全。必要なら、医療情報も提供してくれるんだよね。最初は、保健所に行けばタダで検査できるの、高いお金を出してやる人がいるのになって思ったけど、保健所の対応に不安がある人や昼間は仕事で忙しい人には、このキットはオススメできる。使用済みの器具まで処理してくれるし、検査に失敗しても新しいキットをもらえるし。何より、このキットを買った人が何人いて、陰性と陽性の人が何人いたかっていう数字的なデータが、厚生労働省にきちんと開示されるのがいい。検査人口によって、HIV/エイズ対策の予算は変わってくるもの。ボクが、みんなに検査をしてみたいと思ってる理由は、そこ。日本では今、感染者数は増えているのに、検査人口は減っているんだ。このままの状況が続けば、国は研究費や予



# GO! GO! PATRICK

パワフルHIVポジティブ

## がんとHIVの意外な符合。 がんと一緒に生きる 絵門ゆう子さんと会う①

乳がんの告知後全身に転移、そこから復活した経緯を綴った『がんと一緒にゆっくりと〜あらゆる療法をさまよって』の著者・絵門ゆう子さんと対談に、パト、ひさびさに緊張

撮影/高橋聖人 イラスト/大寺 聡 構成/茅島奈緒深



今週の目的地

### 絵門ゆう子さん

元NHKアナウンサー・池田裕子さん（57年生まれ）。'09年よりフリーとなり、女優としても活動を開始。本名から、桐生ゆう子へ改名していたが、2年半前に乳がん告知を受ける。その闘病記『がんと一緒にゆっくりと〜あらゆる療法をさまよって』の出版に際して、新たな活動名、絵門（えもん）ゆう子として、再出発を果たす。現在は、執筆の仕事を中心に、がん告知後に取得したカウンセラーの資格を生かし、がん患者と家族のためのカウンセリングルーム「カウンセリングウイング 苑（ぼん）」を主宰（☎03-5373-3488）

vol. 442

心配顔のパトをよそに、首のコルセットを外す絵門さん。3月から抗がん剤治療を始め、ウィッグをつけていることに触れ「コルセットでウィッグが押し上げられて困っちゃう」

「ガチャツ。静かに扉が開き、絵門さんの気配。スクツと立ち上がるパト。彼女の著書に「がんが首の骨に転移したことによって、首にコルセットを巻いて生活している」とあったため、手助けしなくては、と気になったようだ。しかし……」  
絵門 ごめんなき、遅れちゃって。実はね、コルセットを忘れたと思って、事務所に取りに帰っていたんです。でも、なかなかコルセットが見つからなくて……。そしたらなんと、首に巻いていたんです！  
——そう言い終える間に、テキパキと帽子を取り、カバンを下ろして、椅子に座った絵門さん。そして、首に巻いたコルセットを外した。  
パト ちょ、ちょっと待った！今も首の骨が折れた状態なんじゃない？  
絵門 正しく言えば、折れたところを放射線で固めてもらっています。



読むと元気がもてる絵門さんの闘病記『がんと一緒にゆっくりと〜あらゆる療法をさまよって』は、新潮社より好評発売中

「昨年末に入院したとき、すでに、がんが首に転移していて、7本骨があるうち、3本が後ろに飛び出す形で折れていたんです。骨は崩れる寸前、という感じで、一日でも入院が遅れて崩れた骨が呼吸中枢でも切っていたら、窒息して即死していたかもしれないなかつたんです。入院して、このごついコルセットをはめられて、食事中も寝るときも外してはいけないって。私を驚かせまいと、骨折していることすら知らされませんでした。だから、肺に水がたまって息が苦しいのには、「こんなものしていられるかっ」と、私はすぐ外してしまっただけで、看護師さんたちを困らせました。  
パト っ、今は思いっきり外してらるんですけど……」  
絵門 これね、見ての通り、とても暑いんですよ。  
パト 暑いからって、今も骨が折れやすいんでしょ？ ちゃんと巻いていたほうがいいよ。  
絵門 いつまた折れるかもしれない。そういうことを考えていると、怖くて生きていけなくなってしまうんです。だから、なるべく考えないように

に、と書いて。  
パト う〜ん……」  
——2年半前に乳がんの告知を受けた絵門さんが、呼吸困難、骨転移で首の骨を折って入院したのは1年半前。が、告知された後、一度も通常療法を行う病院には行かず、民間療法などを頼りに、自力の闘病生活を送っていたという。その間のおよそ1年で、全身あちこち、骨にまで転移、病状は悪化した。  
パト どうして、調子が悪いと感じたとき、病院に行かなかったの？  
絵門 その一番の理由は、私と同じ乳がんだった母を、手術や抗がん剤治療など、かなり苦しい治療の末に亡くしているからです。西洋医学的な治療を受けると、病状を悪化させるだけじゃないか、と思いついていました。  
パト ボクは絵門さんが抱いていたような不信感はなかった。HIV感染の告知を受けて、すぐに病院に行ったし。まだそのときは免疫力が高くて、薬をのむ必要がなかった。そこでボクは、少しでも免疫力を下げないようにと思って、サプリメントやらジュースやら、体にいいといわれるものにハマっちゃった。  
絵門 パトリックにも、そういう経験があるんですね！ 私も、がんに効くといわれるものは、ほとんどすべてやってきました。水、食事療法、気功に温泉、中には、100万円の布団」というものまで……」  
パト 100万円の布団?! ボクは

絵門さんほど投資できなかったけど、ボクなりにいろいろ考えて頑張ったんだ。でも気づいたら、すっかり体調が悪くなったの。救急センターに運ばれて、医者に怒られた。そんな一度に大量の薬をのんだら、肝機能が下がって当然だつて。  
絵門 やっぱりねえ。私もまったく同じ状態になりました。民間療法の中には、奇跡的に病気がよくなる人がいることは確かなんです。これさえあれば必ずよくなる、のんだ人は全員よくなる、というような売り文句がほとんど。生きるか死ぬかというところになれば、とにかく試してみようということになりますよね。  
パト ずいぶん前の話だけど、ボクのところにも真っ黒な球の薬が送られた

てきたんだ。これをのめば、HIVウイルスがなくなるっていう薬がね。そーんなバカな薬って思いながらも、ボク、薬を送ってきたメーカーにまで行っちゃったもん。結局、成分表を見せてもらえなかったから、まなかつたけど……。いいと言われたら頭のどつかで、本当か？って思いながらも、自分にも効くかもしれない、いや絶対効くって、自分をだます。絵門 だます、というか、だましたいものなんですよ。どうせのむなら、これをのめば治るんだ！ っていうのを見たいから。  
パト アタシにならできる、自力でよくしてみせるわ！ っつてね。  
絵門 まさに、病院を避けていたときの私がそれでした!! (次号へ)

## 生きるか死ぬかの瀬戸際にいたら、とにかく試したくなる

### Pat'sニュース

アメリカでは結婚のお知らせを新聞に載せるのは一般的。で、先日、ワシントンポストに初めて、同性愛カップルの「結婚」のお知らせが掲載された。この女性同士のカップルは、シビルユニオンの登録をしていたんだけど、カナダで正式な「結婚」をしたの。ワシントンポストは、「法で認められた結婚を否定しない」と行動を示したんだ。

### Pat's日記

小さな頃からキルト（スコットランドの民族衣装のタータンチェックのスカートのことね）が好き。で、この前、丈、ウエストがぴったりなキルトを、あるお店で2000円で発見。即買っちゃった！ 友達には、「バグパイプでもくわえる？」って言われたけど、どうせくわえるなら、もっとぶつといモノがいいなあ〜、ボク！





2人の生きるモットーとは？ パトは「ハッピーに」、絵門さんは「ゆっくりにっくりに」。とかいって、すっごく忙しそうじゃん」とパトにツッコまれ、絵門さんは苦笑い

いう状態であるのは、まぎれもない事実。だけど、今は普通の人と変わりなく元気でいるのも事実です。明日どうなるかは、健康な人だってわからないわけで、今の私を伝えることで、がんという病気が共生していく種類のものだと、少しでも広める役割が果たせるような気がして……

その対談で、パトは詳しく聞きそびれてしまったことがある。それは前回、絵門さんが言った1000万円の布団について。パトが知りたかったのは、「そんなに高価ってことは、フランスベッド？」という点。そこで、彼女に電話で聞いてみた。絵門 ベッドじゃなくて、単なる布団なんです。厚さは10cmほどでクッション性があり、寝心地は◎でした。

ただ日に干したくても、一人じゃ持ち上げられないほど重く……。それは、中に宇宙エネルギーを取り込めるという板が入っているためです。そして、この話をパトに伝えた。パト 宇宙を取り込めるのか、重くて当然だね。今、絵門さんはその布団を事務所に置いてあるんだよね。一晩でいいから、貸してほしいなあ。

# GO! GO! PATRICK

パワフルHIVポジティブ

## がん=死? HIV=死? がんと一緒に生きる 絵門ゆう子さんと会う②

HIVは、つい最近まで「感染したら生きて10年」と言われていた。がんも依然として、「死に至る病」とされている。しかし、ここに、病と一緒に楽しく生きる、2人がいる

撮影/高橋聖人 イラスト/大寺 聡 構成/茅島奈緒



### 前回のあらすじ

2年半前にがん告知を受け、闘病記「がんと一緒にゆっくりに〜あらゆる療法をさまよって」(新潮社)の出版に際して、絵門ゆう子という新たな名で再出版を果たした元NHKアナウンサー・池田裕子さん。告知を受けてから入院するまでの1年間、病院に行かなかった彼女。それは、同じがんだったお母さんが苦しい治療の末に他界されたため、西洋医学に頼ると病状は悪化するだけだ、と思っていたから。現在は抗がん剤治療を病院で受け、体調は良好という。がん患者と家族のためのカウンセリングなど、多彩な分野で活躍中

vol.  
443

がん告知を受けてから、入院するまでの1年間、ありとあらゆる民間療法を試しながら、自力の闘病生活を送っていた絵門さん。そのときの心境について、こう語ってくれた。絵門 夏になると、川辺でキャンプをしていて中州に取り残される、という事故がニュースで流れますよね。川岸には家族や友達を私を助けよう、声をかけてくれる。最初、私も強気でした。いつか自分の足で歩いて、川岸に戻るんだって。でも中州が削られていくと焦りだしました。見守ってくれる人たちに、感謝すべきなのに、安全な所にいる人たちに、私の気持ちなんてわかってこないノと思う。川の上流からは「抗がん剤や手術」といったイカダが流れてきました。中州にいる仲間には、それに乗り移っていくんです。

その光景を目にするたび、私の心は閉じていきました。それでも、絶対自力でノと。泣きながら、でも頑なに。パト ボクがそうだった狐独感を覚えたのは、日本に来てから。たとえば、ボクがナンバをするとき。ニューヨークなら、10人にHIVポジティブだと言っても、8人はそれが何? っていうリアクション。でも日本だと、10人中1人だけ。残りの9人は、病気が高くて頑丈な壁になるみたい。ボクは壁の向こうで、いつも誰かを待っている。ただボクは、待つだけじゃない。ケガする覚悟で、そのハードルを反対側からよじ登るんだ。一人じゃ寂しいからね。がんとHIV。ともに死と直結したイメージが強い深刻な病気だが、大きな違いがある。それは、人につす可能性があるかないか。パト 誰かに、私はがんですって言ったとき、相手はがんの人を心配するよね。それが、HIVだと、相手は自分のことを心配する。この人と一緒にいると、うつされるかもって。絵門 がんの場合も、まるで珍しい動物でも見るかのような視線を投げかけられますよ。闘病記が発売されたからは、見せ物みたいなあなたは気の毒だ、という視線も。パト 見せ物か、その視線、ボクも感じたことがあるなあ。でも、それでいいと思っただんだ。ボクはパンダです。好きなだけ見てよって。絵門 私も、そう思うことにしたんです!! 見せ物にでもパンダにでも、

なつてやろうじゃないかって。パト いや〜ん、パンダ同士じゃ人気が二分しちゃ〜う〜 みんな絶対、パトパンダ、より、ゆう子パンダに注目しちゃ〜う!! 絵門 それは嬉しいなあ。な〜んて。冗談はさておき、実は私、HIVをうらやましく思うことがあるんです。パト えっ?!? それまた何で? 絵門 HIVは人に感染させることがあるから、必ず告知されますよね。パト うん、そりゃ必ず。あつ、そうか。がんの場合、本人に告知されないケースがあるか。絵門 本人が物心つく前の子供とか、かなりの高齢者ならば、まだ考えられます。でも、そうでなければ、本人の重大な権利を奪う行為だと思いませんか? がんと告知せず、自分の問題として対策を練る機会を本人から奪ってしまうのですから……。本人を思いやって隠す家族の気持ちはわかります。母の子宮、卵巣がんが手術後転移したとき、私たち家族も告知しない道を選びましたから。でも、自分ががんになって、自分の問題として取り組むことが、前向きになれるためにどれほど大切かよくわかったんです。家族にも、それを奪う権利は決まてないはず。パト 確かに! 絵門 告知しないことが、いかに無意味なことか。そのことを一人でも多くの人にわかってもらいたい。私は現在進行形のがん患者で、全身どこにがんがあってもおかしくない

## 自力での闘病は 中州から、頑なに自力で 渡ろうとしていた感じ

### Pat's日記

梅雨なのに、ボクは加湿器が手放せない。喘息がひどいんだ。季節の変わり目というのもあるし、ホコリの影響も。咳のせいで眠れないから、この前、睡眠導入剤じゃなくて、初めて睡眠薬を処方してもらったんだ。そしたら、少しは楽になったんだけど、やっぱキツイ。タバコも量減らしたり、軽いのにして、禁煙を目指してるんだけどね

### Pat'sニュース

アメリカのゲイやバイセクシュアルの男性の間で、HIVを持っている人が3年連続増加しているんだ。たぶん、みんな飽きてるんだよね、HIVに。でも、もっと怖いのは、インド。感染者が1年で15%増加。中国もそうだけど、HIV感染の急増で、経済が破綻一歩が近づいてるんだ! 危険だってあるんだ!



過去のSPA!を感慨深げに見るパト。「ボクの体形が違う!昔はデブだったんだよね」と言うが、髪形(はえぎわ)もずいぶん違う。29歳だったパトも今年38歳になります

記念すべき第1回(94年8月10-17日号)。渋谷のボディ・アート店の間宮さんとの対談。テーマが「ピアス」というのも、ある意味、時代を感じさせる



# GO! GO! PATRICK

ハワフルHIVポジティブ

## 連載10年目突入。そして、次週をもってよもやの連載終了?

パトの連載がスタートしたのは、'94年8月10-17日号。指折りの長寿企画となった本連載ですが、リニューアル準備のため、一旦お休み。そこでこの9年間を振り返ります

撮影/高橋聖人 イラスト/大寺 聡 構成/茅島奈緒深



今週の目的地

### この10年での変化

雑誌で連載するのは初めてのことがあったパトが、「カミングアウト大作戦」というタイトルでこの連載をスタートしたのは、'94年8月。それから丸9年がたち10年目を迎えた今、選りての連載から年2-3回この特集というスタイルに変わろうとしている(今後は、よりHIV/エイズの問題に焦点を絞っていく予定)。この大きな節目に際し、パトに連載開始からの9年、先選までの443回分を振り返ってもらおうことに。「まさか、こんなに長く続くとは思ってなかった!」と言うパトの心によぎるものとは?

vol. 444

パト「面白くなかったら、5回で終了」というのは、この連載がスタートしたときに編集長から言われたこと。つまり、最初はお試し期間。なノリだったわけ。それから丸9年。何度かタイトルも変わったり、ページがカラーになったりモノクロになったり。何か変化があるたび、終わりになるんじゃないかってビクビク

'94年9月7日号のテーマは、日本で初めて開催された「第10回国際エイズ会議」。この会議が日本で、このタイミングで開催された意味は「デカイ」とパト



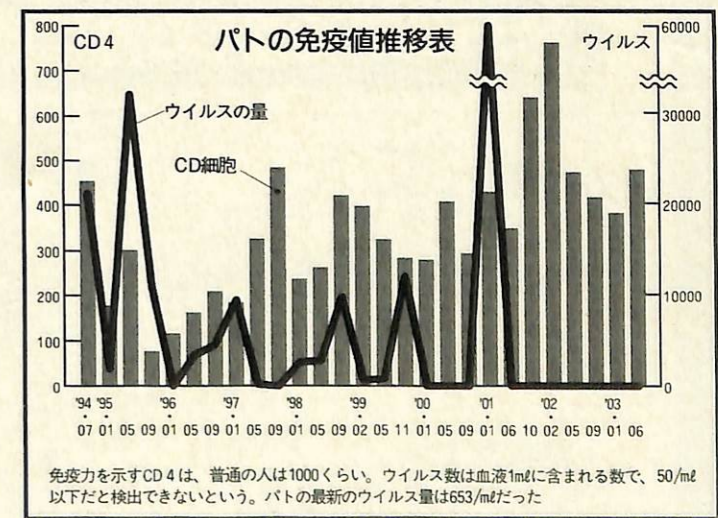
イブの人は増えたと思う。でも、メディアがこの問題を取り上げる回数は減ったからね。きつと、薬害エイズ裁判が一件落着いたことで、HIV/エイズ問題も解決したっていう、間違っただイメージが広まっちゃったんだらうね。現実には、感染者数はうなぎ上りで増えていて、解決からほとんど遠ざかっているのに……。連載がスタートしたとき、日本国内の感染者は60人って言われていたんだ。そのときから、ボクは断言して

しながら続けてきて……。ついに終わっちゃうの? ホント、いろいろやったよね。体験モノでいえば、パシフィックジャンプとロッククライミング。突撃モノの、薬害エイズ裁判が決着する前の川田龍平氏に会ったことも忘れたい。それからNYの親友で、ボクと同じHIVポジティブのロブとロバートに再会できたこと、あとは……、あつ! 絶対外せないのは、おじいちゃんに会いに行ったこと!! おじいちゃんバリバリのカソリック信者で、ボクがゲイであることは認めていない。でも「愛しているよ」って言うってくれる。そのおじいちゃんも

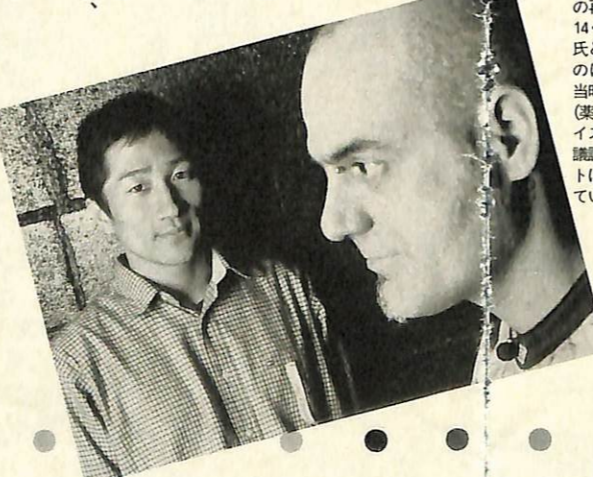


おじいちゃんを訪ねたパト(98年7月22日号)。ゲイは認められないけど、「お前のことは愛している、今でも」というおじいちゃんの言葉に、パト、涙

いたんだ、報告されている数の100倍以上はいるって。で、10年後の今、感染者数は6000人。ほら、ボクは予想は当たったでしてよって言うたいところだけど、それが違う。実数は6000人の10倍で、6万人はいるだろうっていう話だから。この10年で、HIV/エイズを取り巻く状況が変化して、というか悪化したことを、何より象徴している感染者数。では、パトの体調は? パト「1〜2か月に一度、免疫値、HIVウイルス量をはじめ、そのほかの感染症や副作用による症状の有無に、糖尿病やガン検査など、いわば人間ドックに入ってるような検査をしているよ。主治医の岩室先生にも「HIVに関して言えば、VERY GOOD」って言われてる。10年前に比べて、ウイルス量は減っているし、免疫値は上がっているからね。



もう76歳になるのかあ。パトの記憶によると、10年前、HIVポジティブで、顔を出して活動していた人は2人。日本人として初めて、HIVに性感染したことを公表し、執筆活動や講演活動に取り組みれていた、故・平田豊氏。そして、'94年に横浜で行われた国際エイズ会議で日本人感染者の代表としてスピーチされた、大石敏寛氏。薬害エイズ問題で、川田龍平氏がメディアに出て話題になったのは、連載開始後のことだった。パト わずかだけど、性感染・薬害を問わず、顔出しするHIVポジテ



川田氏と久しぶりの再会(01年11月14-21日号)。川田氏と初めて会ったのは、'95年7月で、当時、「よいエイズ(薬害)・悪いエイズ(性感染)」の議論が盛んで、パトはかなり緊張していたという

しかし、あくまでも体調を維持できているのは、薬のおかげ。もし、薬を飲まなくなったら……。グラフの'01年1月を見ていただきたい。ウイルス値が急激に上がっている。新しい薬を試すために一切の薬を断って、イッキに6万にまで上がってしまったのだ。パト 新しい薬を飲んですぐ、ウイルス量は減ったんだ。つまり、そんな薬を飲んでるってこと。当然、薬を飲まなきゃ、一気に増えるよ!! 10年で飛躍的に進んだ薬のおかげで、パトは元気。しかしHIVの問題が終わったわけではないし、このまま終わらせてはいけません! パトはどうする!? 次号にて!

## 連載開始時、国内感染者60人。現在、6000人





**9年間でボクが  
出会ってきた人の数、  
延べ、272人!**

パワフルHIVポジティブ  
**GO! GO! PATRICK**



**最終回  
SPECIAL**  
vol. 445

HIV/エイズを見続けてきた9年間を踏まえて

**10年目の、新しい  
「始まり」のための最終回**

'94年8月に「カミングアウト大作戦」というタイトルでスタートした本連載。445回の今回をもって、一旦、幕を閉じます。今後は、バトの海外取材などを含め、深刻化する日本と世界のHIV/エイズ事情を、より突っ込んでリポートする「HIV特集」へとリニューアル。9年間の感謝と今後の「よろしく」を込め、今回は「始まりのための最終回」!

10年にわたって、週1で連載を続けてきた間、ボクの生活はこの連載でもらえるギャラによって支えられてきました。それが、最終回だなんて……って嘆きだしたら最後、しばらくの間、涙が止まりそうにないから、ここはサクッと気持ちを入れ替えて、ポジティブにまいりましょう。みなさん、この写真を目をこらしてよく見てくださーい! ボクが寝ている下にあるのは、この連載のバックナンバーです。本当は、前回までの444回分を敷きたかったけど、それを一枚の写真に収めようとしたら、空撮するしかないからさ。

全体の約5分の1しかお見せできないけど、結構スゴくない? 実はボク、この連載を始めた当初、すぐにテレビのほうからも声がかかって、レギュラー番組を持てるようになるかもなんてことを思っていたんだ。今年中に、念願だった自分の本は出せることになったけど、いまだテレビの夢は実現せず。人生って甘くないよねえ。でも噛めばオイシイのが人生だから、そう簡単に諦められないんだな、これが。ボクが持っているHIVは、誰がどう考えたって、マイナス要素に決まっているじゃん。どの世界におい

ても、何をするにも。でもボクは、プラスにしてきた自信がある。HIVに感染していることがわかってから、曖昧に生きることができなくなったボク。感染がわかった80年代後半は、感染したら、10年後にはエイズが発症して死ぬって言われていたからね。自分の命の期限を突き付けられたら、ノンキじゃいられない。どんな些細なこと、たとえばカフェで飲み物を注文するときさえ、「これで、いいじゃなくて、これが、いいってものを選ぶようになった。だって、そうしたほうがより居心地のいい時間を過ごせるもん。

これがいっていいことは、自分で決めて、自分で決めて、自分で決めて。そのクセをつけると、自分に責任を持つようになるから、自己管理しやすくなる。自己管理しやすい自分らしくいられるってことだから、自然と毎日が充実する。ああ、なんてボクって生き方上手なんですよ。最後に一言。ボクがこの連載を通じて言いたかったのは、セックスするときはコンドームをつけましょうってことじゃない。じゃあ何かって? 「ここまでの58行の中で、語ったつもりだけど……。見つけられなかった人は、ちゃんと読み直してね!

# パトリックが注目する 世界のHIV事情

HIV感染率のデータ出典/国連人口基金「State of World Population 2002」

- 依然としてHIV感染者の陽性率は高いものの、若者を対象としたピアエデュケーションなどのプロジェクトにより、数年前の深刻な状況は改善されつつある
- セックスワーカーへの指導で、コンドームの使用率は'97年の37%が'01年には90%に

- 治療薬の開発力は世界一(約40種類が研究中)
- 薬の開発が安心感を与え、予防活動が手薄に
- NPOなどの活動が活発。ミシシッピ州ではHIV感染者の就労支援ハウスなども
- ラテン系の人々に感染者が増加中(あるデータによると新規感染者の5分の1がラテン系)

多様なモデルケースが見られる

## カンボジア

15~24歳のHIV感染率(%)男0.97、女2.49

## アメリカ合衆国

15~24歳のHIV感染率(%)男0.48、女0.23

注目すべき  
海外事情

## インド

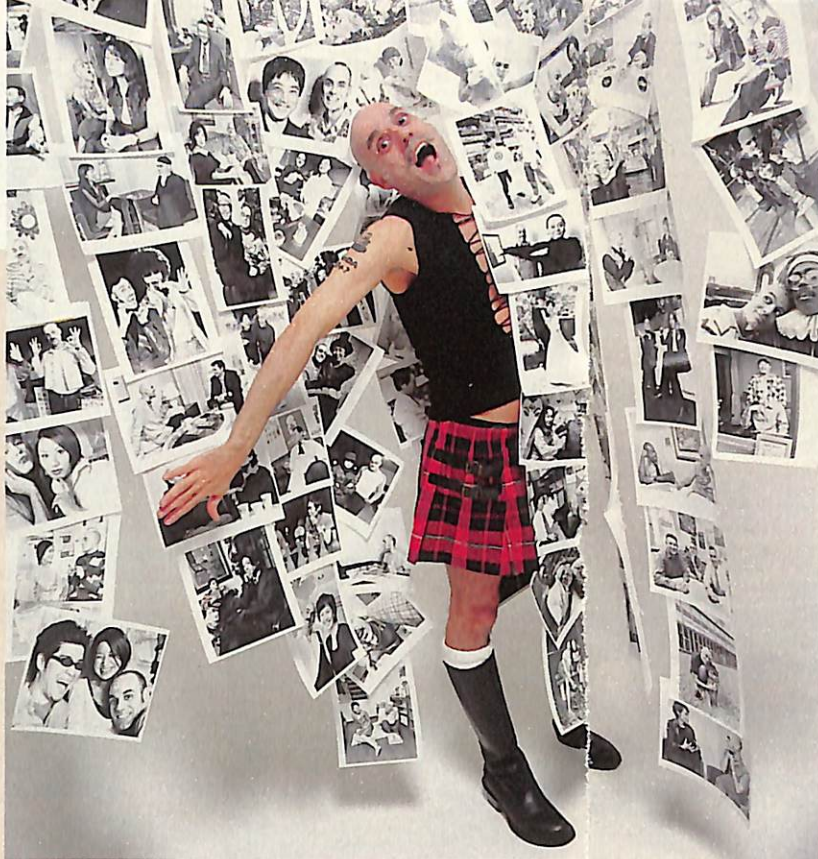
15~24歳のHIV感染率(%)男0.34、女0.71

## 中華人民共和国

15~24歳のHIV感染率(%)男0.16、女0.09

- 397万人がHIVと共に生きていとも
- 年間17%というハイペースで感染者増
- 全国的にはHIV/エイズに対する意識は高いが、農村部の女性に情報が届いていない
- 男性とセックスする男性の相当数が女性ともセックスをするなど、複合的性行動が感染を拡大

- HIV感染者数・推定100万人
- 6人に1人が「HIV/エイズという言葉を知ることがない」
- 世界の工場が集まる中国での感染拡大は、世界的に生産能力減少を引き起こす可能性も
- 日本企業が中国で治療薬研究を開始



# SPA!は身近なHIVの 国内問題を大きなテーマに

## HIVは他人事 という誤解を解く

エイズパニックと言われて騒がれた80年代後半から、多くの人がHIV/エイズの問題に取り組んできた。が、時間の経過とともに、この問題を取り上げるメディアの数は減少。感染者数は増加しているにもかかわらず、HIV/エイズに対する人々の意識は年々、希薄になり、すっかり「他人事」になっていくのが、この国の現状だ。

特に若年層への感染拡大は顕著で、その現状を考えれば「HIVは終わったこと」なんて、とんだ誤解。しかも、HIV/エイズ問題は、生命・医療・福祉・薬事行政など、多く

のことをはらんでいる。一人ひとりが、当事者意識を持つべき大問題なのだ。

例えば、HIV/エイズ予算に形を変える税金の使われ方。毎年、少なからぬHIV/エイズ対策費が予算に組み込まれているにもかかわらず、まったく功を奏さず、感染者が増加。組まれた予算が、どう使われてきたのかの具体的な情報は非公開。SPA!も、何度か厚労省へ取材申し込みをしてきたが、明確な答えは得られないまま。

また、近い将来に大問題となりそうなのが、医療費について。投薬代を含め、HIV感染者の治療費は個人差はもちろんあるものの、月約20万円とされている。高額な医療費は

## 海外事情から 見える日本があるはず

この目で見て、この心で感じた世界のHIV/エイズの現状をレポートしていきたい。今後、ボクが誌面に登場するのは週1から年4回に減っちゃうわけだけど、その分内容の濃いものをみんなに届けたいと思っています!!

思うに、国の体制や経済状況、人種や文化の差、気候などの違いによって、HIVに感染するルートやスピードは変わってくるから、それぞれの防止策があるもの。感染者本人とその周囲にいる人たちの意識も違うから、感染を広げないための教育方法も当然、異なる。国主導の例ばかりじゃなくて、私設団体や個人による成功例もある。その中には、HIV/エイズ政策において後進国の日本にとって、刺激やヒントになることが多いと思うんだ。

①カンボジア  
数年前から、国連人口基金とか、諸外国のボランティア団体のヘルプによって、HIV/エイズを取り巻く状況は激変。例えば、コンドーム

②ブラジル  
いろんな人種が多く住むなかで、ボクが一番知りたいのは、日系人たちの動き。彼らには、日本人と同じ血が流れているけど、独自の文化をつくり上げている。HIV/エイズに対しても、独自性があるかも。

③インド  
ボクが調べた限りでは、今感染者の増加率が一番高い国。年間17%増カーストによって感染状況は大きく違うだろうから、多様な対応策が取られているはず。その点に興味津々

④中国  
人口世界一の国とはいえ、6人に1人が、HIVやエイズという言葉すら聞いたことがないって、信じられる? 一方で、外国の製薬会社と手を組んで、治療薬を販売することになっている。その意識差は、どこか日本に通じるものを感じるなあ。

⑤アフリカ  
かつて、1つの村に感染者が出たら、村の75%が死んでしまうという状況で、エイズで親を亡くす子供たちが多かった。そこで、国連をはじめ諸外国のボランティア団体は、残された子たちに、どうしてお父さんとお母さんは死んだのか、同じ病気にならないためにはどうしたらいいのかわかることを、教えていったんだ。

感染者にとっても大きな負担となっているけれど、感染者の増加は、当然、国全体の医療費の肥大につながっていく。それは、「他人事」では済まされない、一人ひとりのお金の問題。ほか、病院および医療システムの落ちと穴など、光の当たらないところで、問題は山積みになっている。

これらは、SPA!が丸9年、HIV/エイズにかかわってきたからこそ、見えてきたもの。連載10年目突入を機に、今後は、こうした問題をじっくり掘り下げていけるよう、年4回の定期特集にリニューアル。パトリックは、これまでの週一連載では時間的に実現しなかった海外取材に重点を置き、世界から見た日本の問題点を考察、SPA!は独自に国内問題に取り組んでいく。

★ 次の登場は世界エイズデーを控え、11月末。これまで、応援してくださり、ありがとうございました。そして、今後の展開にご期待ください。



★それぞれの防止策  
日本でも、ようやく予防対策の拠点となる「エイズ予防研究センター」が設立されることに。中心となっているのは、京都大学大学院医学研究科の木原正博教授。医学のみならず、社会学や心理学、教育学をも含め、総合的にエイズ予防の専門研究を行い、日本の文化に即した予防モデルの構築、専門家の養成、疫学情報の収集、発信を行う。設立は来春の予定

★日本の性教育  
厚生労働省への報告では、'02年のHIV新規感染者614人のうち、10代・20代の感染者は219人で、全体の3分の1になる。このため性教育の重要性が強く指摘される一方、依然として「覆た手を起すな」という考え方が根強く、コンドーム装着実習などに難色を示す学校も少なくない。しかし、先日、長崎県が感染予防のため、県内の高校生を対象に啓発活動を実施。啓発授業後の事後調査でコンドームの使用率は上がっていて、性交渉経験者の数は増加しなかったという実例もある。

★エイズ対策費用  
平成15年度の厚生労働省のエイズ対策関連事業予算は総額112億9500万円。エイズ発生動向調査や、感染者の保健福祉相談事業などの「原因究明・発生の予防及び蔓延の防止」に2億1800万円。「医療の提供」に23億6900万円。「人権の尊重・普及啓発」関連には20億3900万円が割り当てられていて、パンフレットの配布等の啓発費には18億6000万円、エイズ予防ポスター制作に900万円の予算が割かれている。これだけ予算が割れながらも、感染者は増加。これら予算は効果的に使われたのだろうか?

⑥学校に行けない子供たちには、口づてで。その結果、ここ数年で感染者数は減少。日本の性教育のあり方を直す、いい材料じゃない?  
そのほか、治療薬の開発が一番進んでいるアメリカ、インド・中国と並んで感染拡大が深刻なロシア、感染者の隔離政策をとっているキューバにも注目している。感染者のボクにとって、どの国でも厳しい取材になるだろうけど、絶対頑張るよ!!

文字通り、裸一貫。  
ボクが肌で感じたこと、  
伝えていきます

